

1 自然と共生する里づくり連絡協議会（千葉県いすみ市）

協議会の構成員

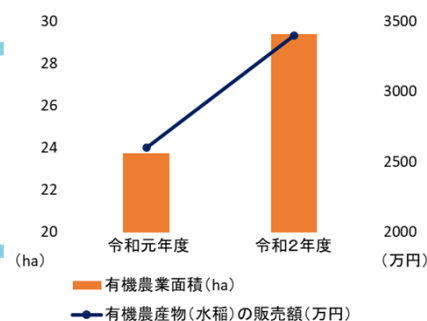
有機水稻(JAほか9農業団体)、有機野菜(直売所他5農業団体)、自然環境(環境NPO13団体)、地域経済(商工会ほか12団体)の4部会による協議会を構成。事務局はいすみ市農林課と水産商工課。

生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
有機農業取組面積：29.38ha
うち有機JAS取得面積（水稻）：9.9ha
- 栽培品目：水稻、にんじん、食用なばな、こまつな等
- 有機農産物の生産量：125トン
（うち水稻：120トン、うち野菜：5トン）
- 有機農業者数：39名
- 構成員の主な取引先：5箇所
（学校給食、直売所、生協、中食、総合スーパー等）

成果（令和2年度）

- ・有機農業者数の増加：37名 → 39名
- ・有機農業面積の拡大：23.75ha → 29.38ha
- ・有機農産物（水稻）の販売額：2,600万円 → 3,400万円



取組のポイント（取組期間：令和元年度～令和2年度）

- 有機水稻の単収向上等に向けた取組（R元年～）
 - ・平成29年度に、市内全13の市立小中学校で、全国初となる学校給食全量有機米使用を達成。
 - ・令和元年度には水稻の有機栽培を行うほ場でミッドマウント式水田駆動除草機による発芽雑草対策やミネラル、アミノ酸肥料を用いた高品質多収穫栽培を実証し、単収が20%向上。安定多収が見込めるため、栽培面積が令和2年度は9%拡大、令和3年度は24%拡大した。

- 有機野菜の供給体制構築に向けた取組（H30年～）
 - ・学校給食に有機野菜を求める声が高まる中、令和2年度には有機農業者数の増加や面積の拡大により、にんじん、こまつな、じゃがいも、玉ねぎ、長ねぎ、大根、にらに続き、キャベツも加えたの8品目に供給が拡大した。新規・転換者のほ場で土づくり実証を実施し、緑肥の導入や「太陽熱養生処理技術」を実証。

また、各品目別の栽培に係る研修会等を実施するなど、地域における有機野菜の収量や品質、土づくりにかかる技術体系の確立に寄与。



（有機栽培米を食べる児童）

一言アピール！

房総半島の米どころ「いすみ市」で作られている有機米『いすみっこ』は、子どもたちの未来を支えるおいしいお米です。給食の残食も減りました！

問い合わせ先：
自然と共生する里づくり連絡協議会
0470-62-1515
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446



2 株式会社いかす (神奈川県平塚市)

企業の構成員

有機農業者：白土卓志、内田達也、岩崎恒一、伊藤豊

協力：生協、スーパー、堆肥製造会社、チップ製造会社、給食製造会社、農業系大学など

生産概要（令和2年度末）

■取組面積

有機農業取組面積：4.5ha

うち有機JAS取得面積：2.8ha

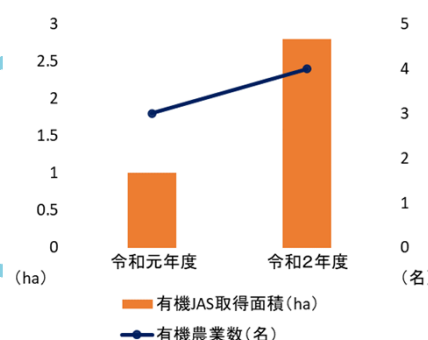
■有機農業者数：4名

■栽培品目：たまねぎ、にんじん、ばれいしょ等

■構成員の主な取引先：約10箇所
(スーパー、レストラン 等)

成果（令和2年度）

- ・有機農業者数の増加：3名 → 4名
 - ・有機JAS取得面積の拡大：1.0ha → 2.8ha
- 農業研修生から周辺の地域（神奈川県内）での新規就農者を4名輩出しています！



取組のポイント（令和2年度～）

■有機農業の普及・拡大に向けた取組

- ・作業の有効性の把握を目的に、土壌分析、収量調査及び栄養分析等の比較調査を実施。土壌診断の結果に基づいた土壌改良（石灰の投入）および緑肥の利用に取り組み、初年度から一定以上の品質・収量を実現できた。継続して調査を実施し「技術の汎用化」を実現し、有機農業の普及・拡大を目指す。

■有機農業者の栽培技術・経営力向上等に向けた取組

- ・有機農業関係者等を対象に、土壌診断や農業経営における考え方、食や種に関する勉強会など幅広い分野における講習会を年6回実施。有機農業者の栽培技術・経営力向上に寄与した。
- ・開墾初年度から、土壌改良、緑肥の利用及び連作によるたまねぎの収量の年々アップや栄養価の高いキャベツの収穫など実績があがった。



耕作放棄地から作付3年目の畑のカブが、オーガニックエコフェスタ2021で最優秀賞を頂きました！！

問い合わせ先
株式会社いかす
080-3672-0802

関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446



3 名古屋オーガニックアクション協議会（愛知県南知多町ほか）

協議会の構成員

有機農業者（7名）、半田市、株式会社yaotomi、（株）三河グリーンズ、自然派ママの会@あま市

生産概要（令和2年度末）

- | | |
|---|---|
| ■取組面積
有機農業取組面積：11.8ha
うち有機JAS取得面積：0.9ha | ■栽培品目：菜種、人参、大根、パプリカ等
■有機農産物の生産量：15トン
■構成員の主な取引先：5箇所
（イオンリテール(株)、(株)ヤマナカ、カネス工等） |
| ■有機農業者数：7名 | |

成果（令和2年度）

- ・有機農業者数の増加：6名（令和元年度）→7名（令和2年度）
- ・有機JAS取得面積の拡大：0ha（令和元年度）→0.9ha（令和2年度）

取組のポイント（令和2年度）

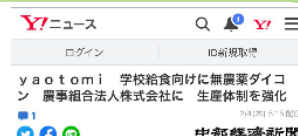
■学校給食への有機大根の納入

- ・愛知県半田市の学校給食関係者との打合せを行い、学校給食が求める規格や数量などの条件を満たす目途が立ったことから、有機大根について、愛知県半田市の学校給食に令和3年2月の一ヶ月間、納入することが決まった。

規格の部分で意識の乖離があり、予算を合わせるのに非常に苦労した。次年度以降は、規格の緩和を求めるなど意見調整していき、積極的に拡大していきたい。

■トヨタ自動車生産方式の考え方を導入

- ・トヨタ自動車生産方式の考え方であるジャストインタイム、2S、カンバン方式等の考え方をもとに作られた栽培管理システム「豊作計画」を導入。トヨタ自動車社員より年数回に分けて研修会を実施。「有機農家の常識」は「世間の常識」とは違うことを研修の都度痛感、この世間との意識のギャップを埋めるのに非常に苦労をした。この意識改革なくして面積と生産高の増加は見込めないため、次年度以降も取り組んでいく。



有機野菜、化粧品、薬油などを製造販売する yaotomi（ヤオトミ、実質本社半田市広小島町155の3・クラシティ1階、犬飼崇社長、電話0569・89・9715）は、学校給食向けに有機無農薬栽培ダイコンの初納入を決めた。今月から1カ月間、半田市の学校給食センター向けに供給する。今後は近隣自治体への納入拡大を目指す。グループで栽培を手掛ける農事組合法人の株式会社化も計画している。（半田）

学校給食への納入



研修会の様子



EU諸国やオセアニア地区の農産物情報を聞く度に、日本のオーガニックは相当に遅れているなと危機感を感じています。そんな日本の中で灯火となる活動を展開していきたいと考えています。

問い合わせ先
名古屋オーガニックアクション協議会 0569-89-9715

東海農政局生産部生産技術環境課
052-746-1313

4 生活協同組合コープ自然派奈良（奈良県橿原市）

協議会の構成員

生活協同組合コープ自然派奈良、農事組合法人農民連奈良産直センター、奈良有機農業推進協議会農業者（3名）

生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
有機農業取組面積：270 a
- 栽培品目：菜の花、白菜、人参
- 有機農業者数：7名

成果（令和元年度→令和5年度見込）

（令和2年度）

- ・ 有機農業取組面積の拡大：270 a（令和2年度） → 450 a（令和5年度）
- ・ 有機農産物の出荷量：0（令和2年度） → 450 a（令和5年度）

取組のポイント（令和2年度）

■ 有機栽培技術栽培セミナー開催

- ・ BLOF理論に基づいた栽培技術の基礎を実践例をまじえて学ぶ入門編の講座（年4回）を開催した。
- ① 高栄養価・高品質・多収穫・安定栽培をめざすBLOF栽培の概論
- ② 露地栽培・稲作でのBLOF理論を活用した栽培技術の実践について
- ③ アミノ酸肥料と水溶性炭水化物の施肥技術と産地形成の実践例
- ④ 未来を創るBLOF理論 ～無農薬・高品質・多収穫栽培を成功させるために



■ 実証圃場研修会

- ・ 実証圃場においてBLOF理論栽培と通常の有機肥料で栽培した作物の比較実証を行った。生育、根張りに大きな違いがありBLOF栽培の優位性を確認することができた。また実証圃場の作物が栄養価コンテスト最優秀賞を得た。



■ 学校給食への有機作物の納入

- ・ 橿原市長や関係課と学校給食有機農産物導入への意見交換を行なった。これらの意見交換会を通して橿原市魅力創造部農政課の協議会参画に繋がった。



農家、農業団体、消費者、自治体と連携を深めながら地域での有機農業の拡がりを目指しています。

問い合わせ先
生活協同組合コープ自然派奈良
TEL：0742-93-4484

5 京都オーガニックアクション協議会 (京都府および周辺)

協議会の概要

京都市周辺の生産者、流通業者、飲食店、学術関係者ら
(369商店、坂ノ途中、アスカ有機農園、ワンドロップ、へんこ、
Cocodeかみむら農園、音吹畑、梅本自然農園ほか)

生産概要 (令和2年度末)

- 取組面積
有機農業取組面積：61 ha (うち有機JAS取得面積：9ha)
- 有機農業者数：52 名
- 栽培品目：万願寺とうがらし、米、ネギ、黒豆、筍など

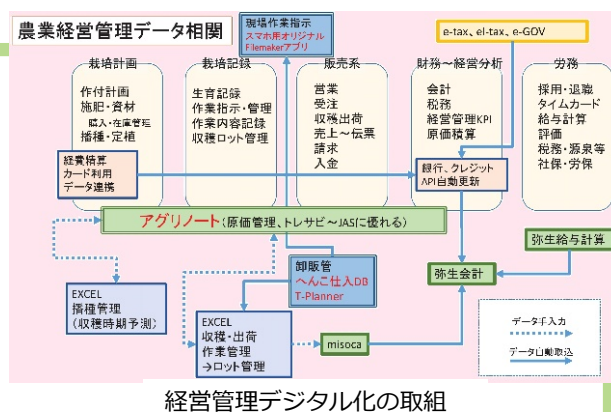
品名	単位	数量	単価	金額	5/28 (金)	6/18 (金)	6/27 (金)	6/28 (土)
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000				
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000				
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000				
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000				
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000				
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000				
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000				
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000				
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000				
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000				

成果 (令和2年度末)

- ・ 本事業取組生産者数： H30年度末 **34** 名 → R2年度末 **52** 名 (53%増)
- ・ 有機農業面積の拡大： H30年度末 **55.7** ha → R2年度末 **61** ha (9%増)
- ・ 有機農産物の販売額： H30年度末 **4479** 万円 → R2年度末 **5079** 万円 (13%増)

取組のポイント (令和2年度)

- ・ 共同物流便運行と農産物生産販売計画・取引データの共有
- ・ 生産者／実需者の意見交換会および相互訪問
- ・ 地域の生産者・実需者を巻き込んだ作付検討会の開催
- ・ 生産者対象の経営技術に関わるオンライン勉強会実施
- ・ 経営力向上／出荷効率化に関わるソフトウェア導入実証
- ・ 少量多品目農業者の生産コスト～品目毎の適正価格算出支援



京都周辺の比較的小規模の生産者・実需者らが集まり、
生産・販売・物流に関する情報を共有。
周年供給体制構築に向けた「作付検討会」を **2** 回開催。

意見交換会、意向調査などを実施 (**2**回)

生産技術や経営スキル向上を図る勉強会等を **10** 回開催



地域内流通を支えるコミュニティづくり

持続可能な社会を目指す生産者、流通業者らが集まって
知恵を出し合いながら、新しい流通の仕組みづくりに
取り組んでいます！ 全国各地の皆さんも連携しませんか？

問い合わせ先：
近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722



6 有限会社かごしま有機生産組合（鹿児島県鹿児島市）

供給拡大型

法人の概要

- 法人設立：1991年7月（事業開始 1984年4月） ■資本金：3千万円
- 年間事業高：8億2千万円 ■従業員数：74名

生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
有機農業取組面積：180 ha
うち有機JAS取得面積：163 ha
- 構成員数：160名
- 栽培品目：野菜 約100品目、果樹 約20品目、米、茶 等

成果（令和2年度）

直営農場にて、ごぼう用溝掘機の導入実証及び自社加工施設にて、ごぼうチップスの商品開発に取り組んだことを契機に、当該農場にて、これまで栽培していなかった、有機ごぼう（60a）の栽培を行うことが出来た。

取組のポイント（令和2年度）

■新たな栽培技術の実証【ごぼう用溝掘機の導入実証】

ごぼう用溝掘機の導入による機械化体系確立により、実証データの収集をし、生産量拡大をはかり栽培技術力・経営力向上に繋げる。
導入による期待できる効果として、「股割れ根の発生の軽減」、「短根の発生の軽減」がある。

溝掘機使用区と非使用区の比較実験の結果、使用区は長型の重量のあるごぼうを安定的に生産できることを確認できた。



左：（非使用区）平均根長＝44cm
右：（使用区）平均根長＝103cm

■加工品の試作開発【ごぼうチップスの商品開発】

当初、揚げ製法で3種のフレーバー（プレーン・塩味・カレー味）の製造を進めたが、購入したサンプル品に比べ油分を落としきれておらず、改良をすることにした。

揚げ温度や油の種類の変更、焼き製法を行う等試行錯誤を経たが、市販に耐えうる商品開発に至らず、試作品段階に留まり、令和2年度中での商品化は見送ることとした。



ごぼう用溝掘機（トレンチャー）



一言アピール！

有機ごぼうの増産に向けてより一層頑張ります。

問い合わせ先：
有限会社かごしま有機生産組合
事務局 099-282-6867

九州農政局生産部生産技術環境課
096-300-6274